

1/10 伝統技法で仕事始め

大田原太子祭開催



1月10日に、建築の神様として聖徳太子を祭った太子碑が建つ大田原神社の境内で「太子祭」が開催されました。

太子碑前で関係者や市民が見守る中、建設業に
関係のある職人たちが仕事始めの儀式として、
烏帽子・狩衣かりぎぬの装束で鋸のこ・手斧ちやうななどの道具を使った古式豊かな儀式を行い、1年間の作業の安全や商売繁盛を祈願しました。

1/8 新年の恒例行事

どんと祭開催



黒羽商工会青年部がまちおこし事業として昭和51(1976)年に復活させ、今年で46回目を迎える新春恒例行事「どんと祭」が今年も開催されました。やぐらにしめ縄や松飾り、だるまなどの正月飾りを入れ、黒羽中学校弓道部の学生が火のついた矢を放って点火し、焚き上げます。黒羽向町の那珂川河川公園で行われ、家族連れなど多くの人で賑わい、無病息災を祈りました。

1/11 子どもたちの読書活動応援

大田原信用金庫からの寄附



大田原信用金庫から、社会貢献活動の一環として毎年寄附をいただいています。

平成19年度から今年度で15回目となり、寄附金で購入した資料点数は、5,469点になりました。子どもたちが読書を楽しむことで自ら学び、表現力や想像力を豊かにすることができる読書活動の充実を目的に、「だいしん文庫」として、大田原図書館に設置されています。

1/10 地域農業の牽引役に

栃木県農業士・名誉農業士に認定



1月10日に県公館において、「栃木県農業士・女性農業士・名誉農業士」の認定式が行われ、本市から市野沢の渡邊一浩氏が農業士に、加治屋の古谷慶一氏が名誉農業士に認定されました。

渡邊氏は、水稲とねぎを組み合わせた複合経営を行い、地域農業の中心的な担い手として活躍されています。古谷氏は、有機農業の経営モデルの先駆者として活躍されるほか、農業者のグループ活動を幅広く展開し、青年農業者の育成指導や地域農業の振興にご尽力されてきました。

1/23

「リアン未来募金」から子育て支援

株式会社リアンコーポレーションからの寄附



住宅リフォームなどを行う株式会社リアンコーポレーションでは、顧客選択型の社会貢献活動として、契約金の一部を顧客が選択した支援内容に寄附する「リアン未来募金」を行っています。この度その募金から本市の子育て支援のため、8万円を寄附していただくこととなりました。

いただいた寄附は子育て支援基金に積み立て、市が行う様々な子育て支援事業の財源として役立てられます。

1/21

文化財を活用した地域づくり

大田原市歴史と観光シンポジウム開催



大田原市の豊かな歴史や文化、それらを育んだ自然環境を保護するだけでなく、観光や地域活性化の資源として積極的に活用するために、先進事例を学ぶシンポジウムを開催しました。

いただいた提言をもとに、「ふるさと大田原」への愛着を深め、将来の地域づくりの基礎として位置づけていきます。

3月12日⑩には那須野が原ハーモニーホールで記念講演会「観光考古学をめざすもの」が開催されます。ぜひご参加ください。

市史編さんだより vol.29

自然部会調査速報⑩

～フナ類を見分けるポイント～

フナ(鮒)は、童謡・唱歌「どじょっこふなっこ」や「ふるさと」などの詞に登場し、誰もがその名前を知っている魚です。栃木県では県南地域を中心に、「海なし県」の貴重なたんぱく源として、甘露煮や昆布巻きなどの食材に用いられてきました。

県内に生息する在来種のフナ類はキンブナとギンブナです。特にキンブナは全国的に減少が著しく、環境省のレッドリスト(2020年)、栃木県のレッドリスト(2018年)の両方で、絶滅の危険が増大している生物(Ⅱ類)に位置付けられています。市内では、近年の調査で確認された生息地はわずか数か所でした。

ところで、キンブナとギンブナは専門家でも見分けることが難しい魚です。まず図1・2は、どちらも

他のフナ類に比べ体高が低いので、キンブナ・ギンブナのいずれかであると分かります。次に背びれのすじ(分岐軟条)を数えます。図3は12本、図4は16本です。例外はありますが、11本または12本であればキンブナ、15本以上の場合にはギンブナと推測できます。

このように、もしフナを見つけたら、横から写真を撮って観察してみてください。(自然部会 小川浩昭)



図1 キンブナ



図2 ギンブナ(提供:栃木県ながわ水遊園)

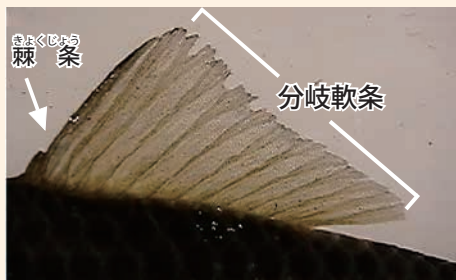


図3 キンブナの背びれ

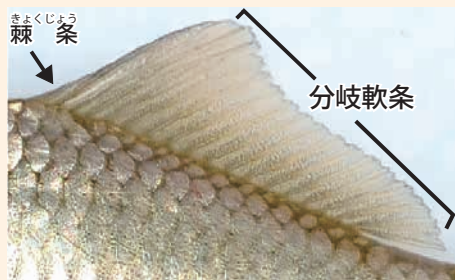


図4 ギンブナの背びれ(提供:栃木県ながわ水遊園)